

令和6年5月16日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和6年4月分

～令和6年4月 データから見た業界の動き～

令和6年5月16日 発表

売上高D.I値が大きく回復するも業種によって偏りあり
円安による物価高騰に苦慮する事業者の声が多い



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和6年5月16日 発表

売上高D.I値が大きく回復するも業種によって偏りあり 円安による物価高騰に苦慮する事業者の声が多い

■ 概 況

4月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +14ポイント（前年同月比 20ポイント↑）

収益状況 ▲12ポイント（前年同月比 10ポイント↑）

景況感 ▲20ポイント（前年同月比 8ポイント↓）となり、売上高・収益状況が前年同月を上回った。

た。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲5ポイント（前年同月比 15ポイント↑）

収益状況 ▲30ポイント（前年同月比 5ポイント↑）

景況感 ▲35ポイント（前年同月比 ±0ポイント）となった。

売上高・収益状況は好転したが、「円安によって原材料（主に銅や石油製品）の価格が急速に高騰しており、製品によっては見積もりすら出すことができない（電気機械器具製造業）」、「地金価格の高騰によって商品販売価格が安定しない（貴金属・宝石製品製造業）」など、数値の回復が製造業全体の傾向とは言えない。

また、骨材・石工品製造業では「組合で需要家のもとに直接赴き価格転嫁への理解を得ることができるよう要望を行っている」と、個々の企業努力には限界がある中で適正な取引価格の実現のために、連携組織を活用した価格交渉を行っている。

一方非製造業では…

売上高 +27ポイント（前年同月比 24ポイント↑）

収益状況 ±0ポイント（前年同月比 13ポイント↑）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比 13ポイント↓）となり、

電気機械器具小売業では「夏に向けてエアコン・冷蔵庫の買い替え需要が増加」しており、鮮魚小売業では「食料品全体の価格上昇によって売上げが増加」するなど、売上高が大きく上昇（+24ポイント）した。

収益状況も好転（+13ポイント）したが、「廃棄物の収集・運搬に係る燃料や人件費などの転嫁について、荷主からの理解が得られない（廃棄物処理業）」、「東京圏は山梨県の3～5割増しの単価による契約が通常であるが、県内では価格転嫁が一向に進んでいない（型枠工事業）」など業種によって価格転嫁の状況には偏りがあり、景況感の前年同月比▲13ポイントとなった。

また、「運行体制の維持すら困難な状況であるが、運送業界だけで解決できる問題ではない（道路旅客運送業）」や、「時間外労働の上限規制等の労働関連法の改正に沿った働き方と十分な収益確保を両立するため、対応策を模索している（鉄骨・鉄筋工事業）」など、運送業・建設業では4月から本格的にスタートした2024年問題への対応に苦慮している。

「経営者・職人の高齢化や後継者不足が重大な課題であり、繊維業界に魅力を感じる若い世代が増えるように、業界全体で対策を検討する必要がある（織物業）」と、人手不足や人材の確保、後継者の不在などの「ヒト」にかかわる課題によって多くの事業者が事業継続に危機感を抱いている。

今後、人口減少や少子高齢化の影響から労働力人口が減少し、若い人材の確保がますます困難になることが予測される中で、賃上げが人材の確保と定着のための重要な取り組みとして位置づけられているが、「取引先には原材料価格の上昇分について窺うのが限界であり、工具や消耗品、ましてや従業員の賃上げ分の転嫁を要求することは不可能である（電気機械器具製造業）」を例に、原資となる売上げ・収益の確保に苦慮している事業者の声が多い。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています、お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

| | |
|----------------------|---|
| 食料品 (水産物加工業) | 大口の受注案件が5月にずれ込んだため、売上は前年対比83.9%であった。円安によって輸入原材料（海産物）の価格が高騰している。 |
| 食料品 (洋菓子製造業) | 店舗拡大によって売上は前年対比104%となった。原材料価格は高止まりしているが、販売価格の値上げは行っていない。 |
| 食料品 (酒類製造業) | 円安であるが輸入ワインの価格は想定していたほど上昇しておらず、国産ワインの販売量を抑え込んでいる。 |
| 繊維・同製品 (織物) | 円安で輸入材料の価格が高騰している。また、経営者・職人の高齢化や後継者不足が重大な課題であり、繊維業界に魅力を感じる若い世代が増えるように、業界全体で対策を検討する必要がある。 |
| 繊維・同製品 (織物) | 円安が一層進む中、輸入材料や燃料、電力などの製造に係るすべてのモノの価格が上昇しているが、販売価格への転嫁が進んでいない。国内のみならず国外への販路拡大も必要である。 |
| 木材・木製品製造 | 前年同月と比べ売上は48%増加した。ウッドショックにも一服感があり、外国材・国産材ともに値下がり傾向であるが、円安と住宅市場の景況悪化によって再び値上がりする恐れもあり、状況を注視している。 |
| 印刷・同関連業 | コロナ禍で減少した売上が中々回復しない。紙媒体の新たな需要創出とDXを軸にした経営基盤強化の必要性を感じている。 |
| 窯業・土石 (砂利) | 前年同月と比べ売上・製品販売価格ともに10%ほど増加しているが、原材料や燃料価格など製造に係るすべての経費が上昇しており、収益状況が悪化している。 |
| 窯業・土石 (山砕石) | 前年同月と比べ売上は4%増加したが、諸物価の高騰（特に電力価格）や、運搬費の上昇によって収益状況が大きく悪化している。組合では、需要家のもとに直接赴き価格転嫁への理解を得ることができるよう要望を行っている。 |
| 一般機器 (業務用機械器具製造業) | 前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲20%となった。長引く受注量の減少に円安が追い打ちとなり、業界全体で先行きは暗い。 |
| 電気機器 (電気機械部品加工業) | 前年同月と比べ売上▲10%、収益状況は▲15%となった。銅と石油製品の価格が急速に高騰しているため電線類の見積もりを出すことができず、原材料の納期遅延も発生している。 |
| 電気機器 (電気機械部品加工業) | 前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲15%となった。半導体製造関連ではスポットで受注があったが、今後の安定的な受注にはつながらないと考える。光学機器関連の動きが悪い分、新たな業種・分野への打診にも力を入れて仕事量を確保する必要がある。 |
| 宝飾 (研磨) | 4月に開催された展示会（山梨ジュエリーフェア2024）での売上が好調であった。 |
| 宝飾 (貴金属) | 地金価格の高騰によって商品販売価格が安定しない。ハンドメイド商品の売れ行きが好調である。 |

● 非製造業

| | |
|---------------|--|
| 卸売 (塗料) | 前年同月と比べ売上は9%、収益状況は17%好転した。価格転嫁が課題である。 |
| 卸売 (ジュエリー) | 円安によって原材料価格が高止まりしており、地金価格も1g=13,000円と過去最高を更新した。工具や消耗品も値上がりしているが、工賃への転嫁が難しく、収益状況の悪化が深刻である。年末商戦に向けた企画を検討しているが、今年は需要減少を見込んでおり、価格競争も激化すると予測している。 |

| | |
|-------------------|---|
| 小売 (青果) | 円安による輸入果物の価格上昇分を販売価格に転嫁できておらず、収益状況が悪化している。生産者の高齢化等の影響によって県内産野菜の出荷量は減少している。 |
| 小売 (食肉) | 円安の進行によって輸入食肉が値上がりしており、入荷量も減少している。 |
| 小売 (水産物) | 食料品全体の価格上昇によって売上げは増加しているが、さらなる値上げによる消費者の購買意欲の低下を懸念している。 |
| 小売 (電気機械器具小売業) | 夏に向けたエアコン・冷蔵庫の買い替え需要が増加しており、前年同月と比べ売上げは5%、収益状況は7%好転した。 電力価格の上昇によって省エネ機器の需要も今後伸びていくと予測している。 |
| 小売 (ガソリン) | 円安の進行によって原油価格が高騰している。当初は4月末で終了予定であった激変緩和対策事業は当面の延期が決定しており、4月中旬から補助金額は1ℓ当たり30円を超えている。 |
| 商店街 | 仕入価格や人件費の上昇によって収益状況が悪化している。 |
| 商店街 | 組合が管理する駐車場の売上げは増加しており、外国人観光客や宿泊施設の利用者の増加によって、大月駅前近隣の店舗は客足が増加しているが、国道20号沿いの店舗は厳しい状況が続いている。 |
| 不動産取引業 | DXビジネスに対応した人材育成が課題であるため、業界全体でデジタル人材確保のための募集活動、育成に力を入れている。 |
| 宿泊業 | 諸物価の高騰によって収益の確保が困難な状況が続く中で、宿泊料金の値上げに踏み切った組合員もいる。 夏は観光のピークシーズンであるため、人流増加に期待している。 |
| 一般廃棄物処理 | 廃棄物の収集・運搬には燃料や人件費など一般的な貨物輸送以上に費用がかかるが、価格交渉では荷主からの理解が得にくい。 |
| 警備業 | 前年同月と比べ売上げは5%増加した。春はイベントの開催が多く、規模もコロナ禍以前と変わらないが、警備員不足によって全ての需要に応えることができなかった。警備単価の大幅な引上げ等によって人材を確保する必要がある。 |
| 建設業 (総合) | 4月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は12%増加したが、請負金額は▲11%となった。 |
| 建設業 (型枠) | 東京圏は山梨県の3～5割増しの単価による契約が通常であるが、県内では価格転嫁が一向に進んでいない。 |
| 建設業 (鉄構) | 鉄骨製造に使用する部品材料の価格が高止まりしており、注文を見送ったものもある。仕事量自体が少ないが、時間外労働の上限規制等の労働関連法の改正に沿った働き方と十分な収益確保を両立するために、対応策を模索している。 |
| 設備工事 (電気工事) | 全体的に落ち着きが出て来た。 |
| 運輸 (タクシー) | 新型コロナウイルス移行後はビジネス・観光ともに客足が回復している。 4月の運賃改定による影響は感じない。 |
| 運輸 (バス) | 仕事量は増えているが、ドライバー不足によって受注を制限せざるを得ず、売上げが回復しない。 |

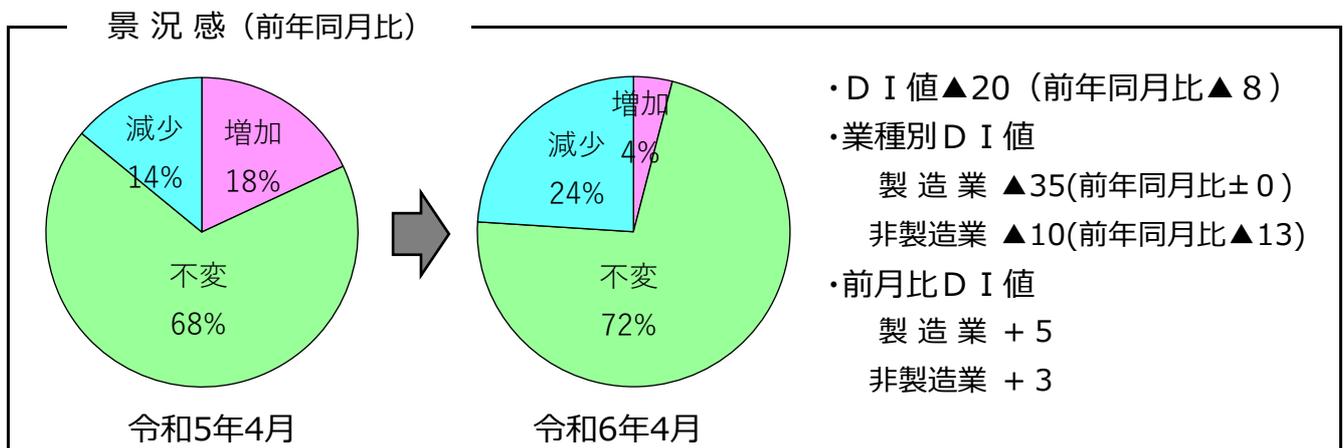
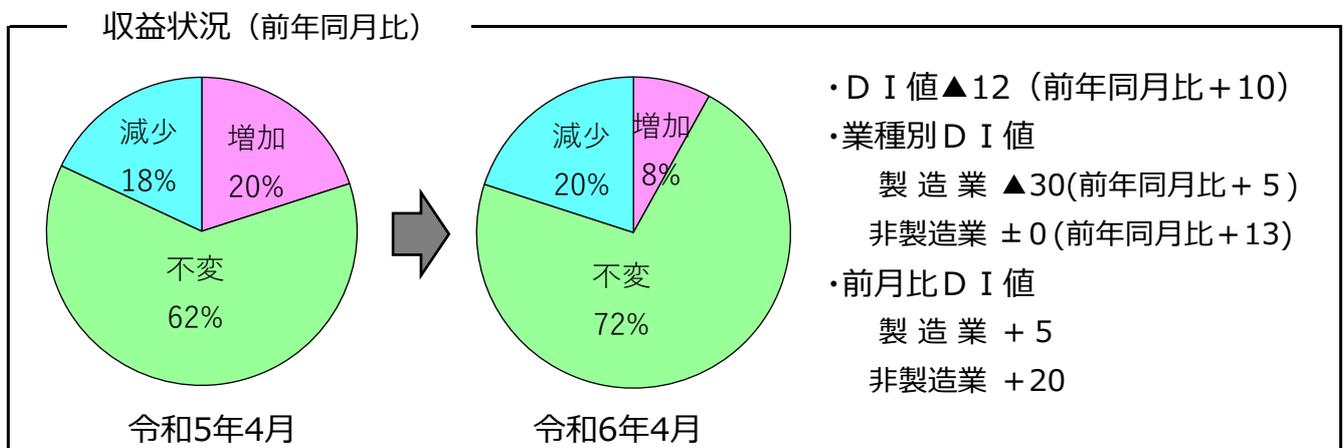
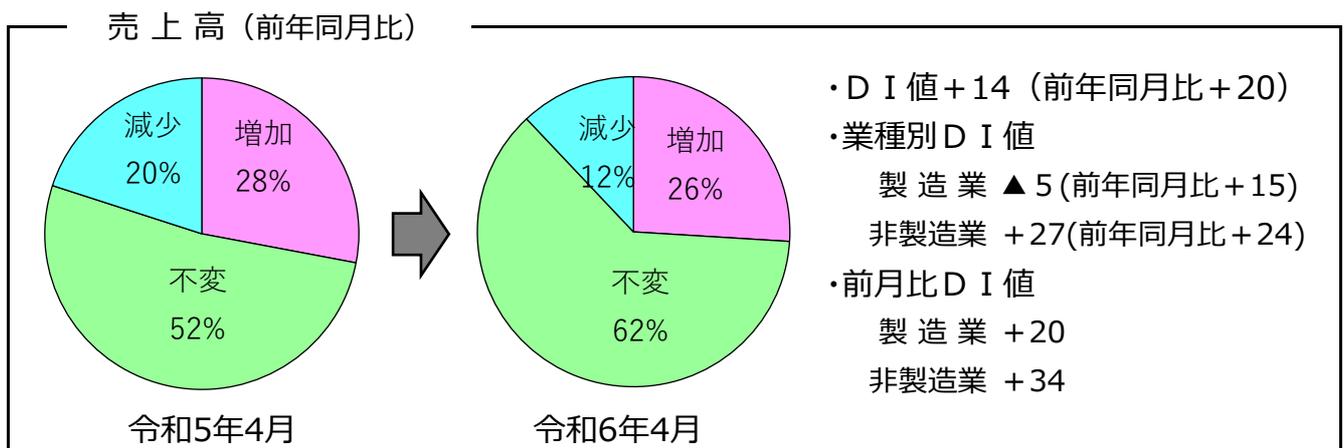
運輸
(トラック)

時間外労働の上限規制が本格的にスタートしたが、ドライバー不足が深刻化しており、運行体制の維持すら困難な状況であるが、運送業界だけで解決できる問題ではない。
物価高や為替の動向による荷動きへの影響も注視している。

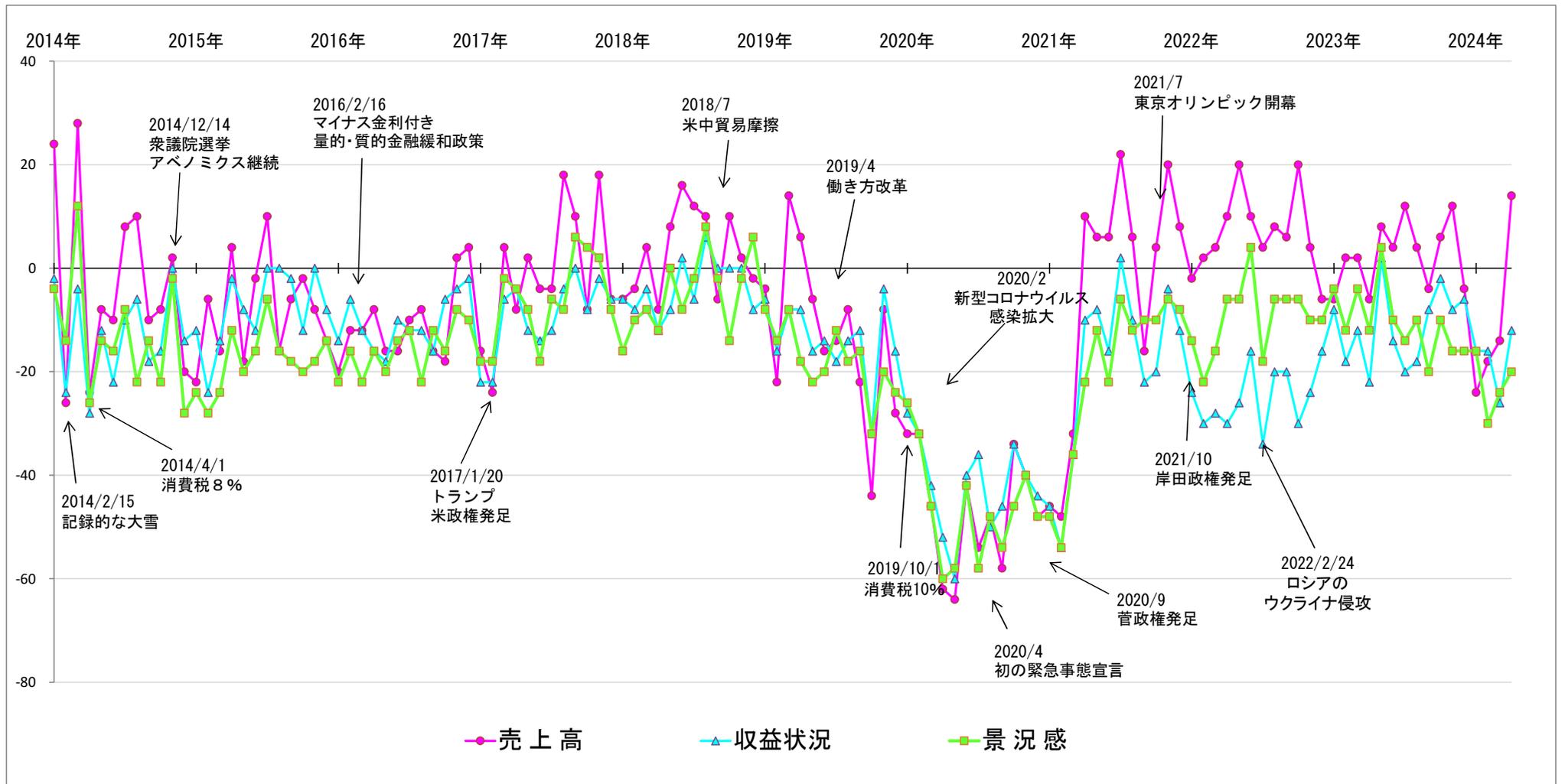
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

| 対前年・前月・当月 | 製造業 | | | 非製造業 | | | 合計 | | |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 2023年4月 | 2024年3月 | 2024年4月 | 2023年4月 | 2024年3月 | 2024年4月 | 2023年4月 | 2024年3月 | 2024年4月 |
| 売上高 | ▲ 20 | ▲ 25 | ▲ 5 | 3 | ▲ 7 | 27 | ▲ 6 | ▲ 14 | 14 |
| 収益状況 | ▲ 35 | ▲ 35 | ▲ 30 | ▲ 13 | ▲ 20 | 0 | ▲ 22 | ▲ 26 | ▲ 12 |
| 景況感 | ▲ 35 | ▲ 40 | ▲ 35 | 3 | ▲ 13 | ▲ 10 | ▲ 12 | ▲ 24 | ▲ 20 |

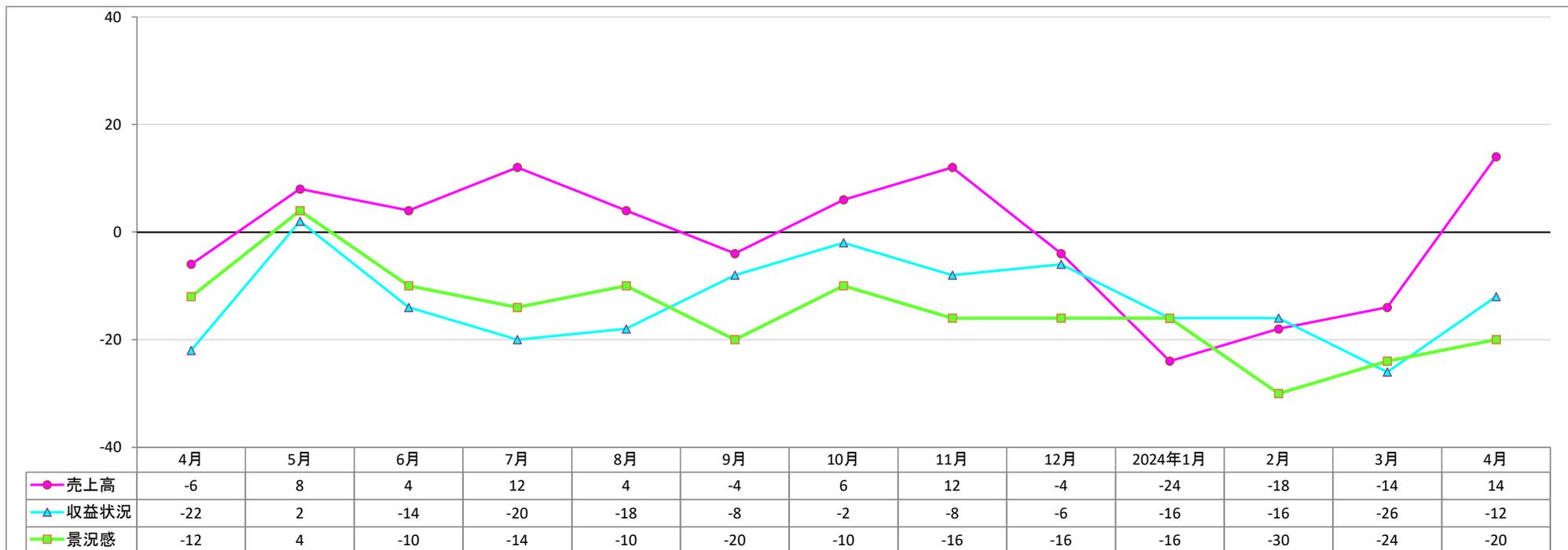
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



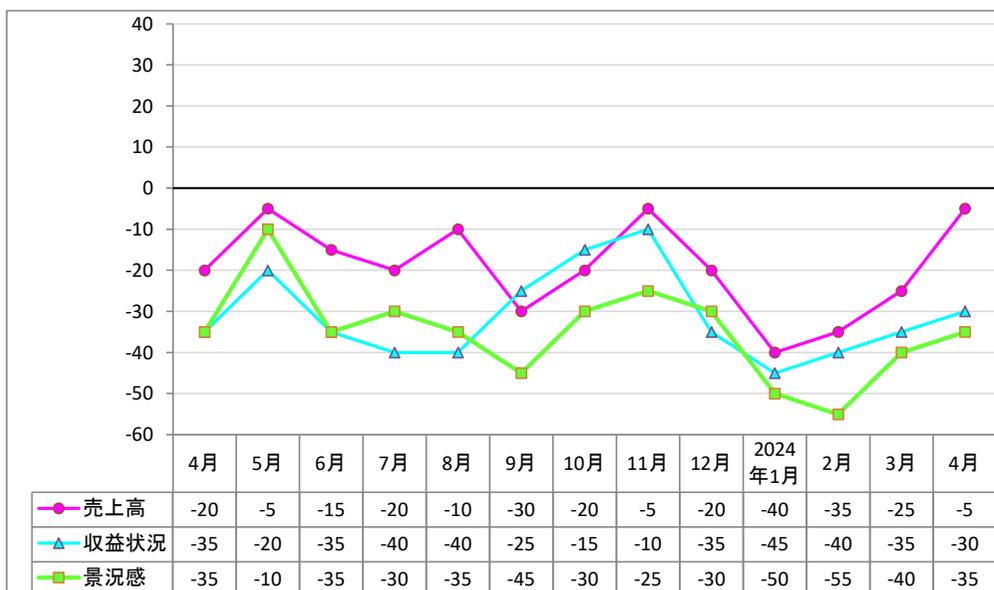
D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月~2024年4月



D.I値の推移②(過去1年間) 2023年4月~2024年4月



【製造業】



【非製造業】

